カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈祷の使徒　祈りの意向

・教皇　女性の尊厳と価値があらゆる文化で認められ、さまざまな差別に終止符が打たれるように
・日本　日本の司教団がペトロの後継者との絆をさらに深め、よい牧者として日本の教会を導いていくことができるように

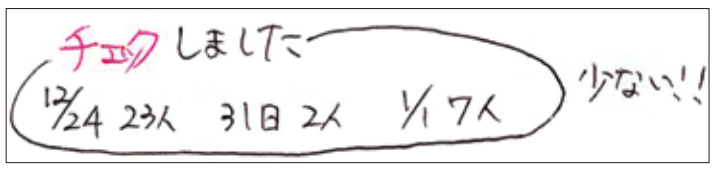
2024年 ご復活の喜びの手紙

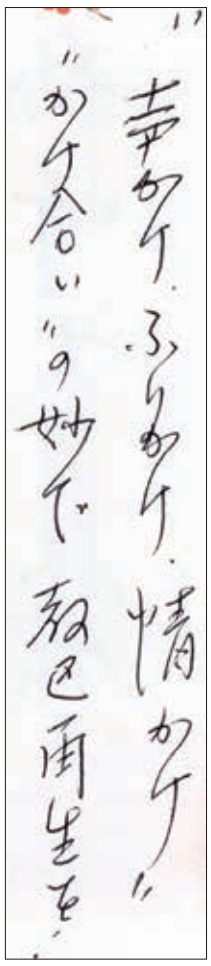
声かけ 心がけ いのちがけ

大司教 ペトロ 中村 倫明

今年最初の手紙で、「声をかけてください」とあらためてのお願いをいたしました。

すると何人もの方から、「声かけ頑張ります」という年賀状や実際のお声をいただきました。ある年賀状には「声かけ ふりかけ 情かけ かけ合いの妙で教区再生を！」というさらなる広がりのあるお言葉を頂きました。また「チェックしました」と数字を記してご報告してくださった方もおられます。あの手紙を多くの皆さま方が、それぞれに心に留めてくださり、実行に移してくださっておられることを知り、とっても嬉しかったです。





そして、実際に皆さま方のお声かけによって、今年の復活祭にも、幾人ものキリスト者が誕生なさったことでしょう。声をかけ続け、導き、ともに歩んでくださった皆さま、ありがとうございます。そして、その声を受けとめてくださり洗礼へと導かれキリスト者となられた皆さま、よかったですね、おめでとうございます。これから同じ神の家族の一員として、よろしくお願いいたします。

洗礼式は、もちろん皆さま方の小教区において大きな喜びでありお祝いですが、「よかったね。ありがとう」と一番喜んでくださっているのは神さまです。

だって、わたしたちに「わたしはあなたを愛しています。わたしが、あなたに命を与え、あなたを創りました。あなたはわたしの愛する大切な子ですよ」とずっと声をかけ続けてくださっていたのは何よりも神さまでしたし、これからだって一番かけ続けてくださるのも神さまだからです。

しかも、その神さまは、このわたしたちを通して、このわたしたちを使ってご自分のことを伝えることを望んでおられます。ですから、その神さまと一緒に、これからも「あなたは神さまから絶対的に愛されていますよ。わたしも大好きです」と声をかけ続けてまいりましょう。このたび受洗なされた皆さまも、これからご一緒にお声かけをお願いいたします。

本年1月に行われた下五島地区合同堅信式でのことです。受堅者代表感謝のあいさつで「わたしたちの大好きな中村大司教様」というフレーズが何度もありました。〝初めてお会いするのに…たぶん、主任神父様かシスターかご両親が書かせたな〟と心の中では思いましたが（間違っていたらごめんなさい）、それでも、とっても嬉しかったです。あらためて感謝申し上げます。そして、わたしも言いたいし、本当はわたしこそ申し上げなければなりません。「わたしもみなさんのことが大好きです」

そして、この「大好きです」という言葉を神さまこそが一番おっしゃってくださっています。

ヨハネ福音記者は、この世においでになった神さまは言葉であったと記しました（ヨハネ1・1－14）。そして、その言葉は「命の言（いのちことば）」（1ヨハネ1・1）であったといいます。

イエスさまご自身もご自分のことを「わたしは命である」（ヨハネ14・6）とおっしゃり、そのことを弟子であるペトロは「あなたは永遠の命の言葉を持っておられます」（ヨハネ6・68）と認めています。

では、神さまの言葉とはどんな言葉なのでしょうか。わたしたちの命となり、わたしたちを生かす言葉とは一体どんな言葉なのでしょうか。

それは「愛している」「大好きです」という言葉です。

ヨハネは「神がわたしたちを愛してくださった」（1ヨハネ4・10、19）と述べ、イエスさまご自身も「わたしはあなたたちを愛した」（ヨハネ13・34、15・12）とおっしゃいました。そして、そんな神さまのことをヨハネは「神は愛である」（1ヨハネ4・8、16）と言い切ります。

この愛である神さまが、ご自身の言葉と行いによって、わたしたちに「愛している」「大好き」と命がけで語ってくださったのです。

イエスさまご自身おっしゃいました。「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」（ヨハネ10・11）。そして実際に、「イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました」（1ヨハネ3・16）。神さまはわたしたちに「その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」（ヨハネ3・16）のです。

まさに神さまの「愛しています」という声かけは、イエスさまの受難と死という命がけの行いでした。さらに神さまは、その命がけの声かけが消えることなく永久に続くために復活という出来事を与えてくださいました。イエスさまはその神さまの愛を認識しておられました。「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる」（ヨハネ10・17）。

そして、実際にイエスさまの復活を通して「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・20）という、さらなる神さまの愛の命がけの声かけとなっていきました。

「愛しています」「大好きです」「いつもともにいます」この神さまの命がけの声かけを、わたしたちがしっかり受け取り、そして、この『愛と救いのメッセージ』を周りの人々にも声かけ伝えていくことに心がけ、この声かけが人々の救いのために懸命（命がけ）になっていく時、わたしたちの教区ももっと変わっていくと信じます。

さて、今回も前回と同じ質問です。
今日、誰かに声をかけましたか？
今日、誰かを教会に導き招きましたか？

おともだちへ

このまえ　おともだちから
こえをかけてもらいました
「だいすきなだいしきょうさま」
うれしかったです

わたしもみなさんにこえをかけます
「みなさんのことがだいすきです」

かみさまがいちばん　わたしたちに
こえをかけてくださっています
「みなさんのことが
だいだいだいすきです」
わたしもとってもうれしいです

だいしきょう
ペトロ なかむらみちあき

ほしかげ

今年は早い復活祭、喜びの季節を草花が彩っている。デスクワークの多い仕事柄、時折散歩する。近所の路地を歩いているうちにミライon図書館に差し掛かる。館内を通り抜けていると、歴史資料館展示室入口の「大村藩」の文字が目に留まる▲中に入り展示されている藩の領地図を見ると、大村湾を囲む一帯に領地が広がり、「地方（じかた）」「内海（うちめ）」「外海（そとめ）」「向地（むかえち）」と呼ばれる4つの区域に分けられている。舟で行き来した時代、穏やかな湾を囲み、大村から一望できる一帯が領地となっていた。対岸間近に見える長与、時津、浦上、滑石辺りは「向地」と呼ばれ、大村と深いつながりがあったことに改めて気づく▲幕藩体制になる前のキリシタン時代、全領民6万人がキリスト教に改宗したこと、領地入口に位置する横瀬浦、次に福田、そして長崎へと港が移っていった歴史も展示されていた。禁教令の時代に入り、信仰を守ろうとした領民は、藩の中央から遠く離れた「向地」の浦上や「外海」の出津・黒崎辺りに隠れ潜んだ事情が見て取れる▲外に出ると、玄関前の天正夢広場には、遣欧少年使節の偉業を記念して設置されたからくり時計があり、毎正時4人の少年が音楽を奏でながら時を告げている▲歴史の大きな流れの中にあっても、「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」（ヘブ13・8）みことばが響く。（秋）

シノドス第16回通常総会
ともに歩む教会のため
第2会期・2024年10月に向けて

今回のシノドス

「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマにした世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会・第2会期が、今年10月2日から27日までバチカンで開催される。

今回のシノドスは2021年10月に開会し、教区レベルでの分かち合いと意見交換、大陸レベルでの総会と作業、バチカンでの総会議（23年と24年の2会期）という三つの段階に分かれ、これらが一つの大きな歩みとして行われている。

シノドスに関する資料や文書などはカトリック中央協議会のウェブサイトで読むことができる。

第1会期について

2023年10月に開催された第1会期について、日本から参加した一人、菊地 功大司教（司教協議会日本代表、東京教区大司教）は、23年12月14日付『参加報告』の中で次のように述べている（中央協議会ウェブサイト参照）。

「今回のシノドスで一番重要な位置を占めるのが、『霊的な会話』という分かち合いであり、その分かち合いを単なるおしゃべりではなく『霊的な会話』にするためには、それなりのトレーニングを受けた司会者（ファシリテーター）が不可欠。（中略）35のテーブルそれぞれに配置されたファシリテーターは、事前の研修を受けていたとはいえ、一番骨の折れる仕事は、事前に定められた3分という制限時間を越え、時に長々と話し続ける聖職者、特に枢機卿や司教の発言を遮って、与えられたテーマからそれないように、そして制限時間を守るように導くことであった。ファシリテーターは男女の信徒や司祭・修道者。この丸テーブルで、枢機卿、司教、司祭、修道者、信徒が、同じテーマについて同じ持ち時間で、自分の思いを分かち合う光景は、今回のシノドスの『ともに歩む』教会を体現する一番の象徴的な光景であった」

また、「シノドス的教会とは、それを構成するすべての人が平等に発言し識別に参加する、一つのキリストの体としての教会である」とも述べた。

第2会期に向けて

教皇庁シノドス事務局は、23年12月11日付書簡「2024年10月に向けて」を通して、第2会期までの数カ月間に取るべき手順について示した。

今後の日本の教会での取り組みを検討するため、昨年末に日本カトリック司教協議会に設置された「シノドス特別チーム」（担当・菊地 功大司教）は今年1月26日、「日本のカトリック教会の皆様」に宛てて、次のことを伝えた。

▼教皇庁シノドス事務局の指示は主に2点。①5月15日までに「シノドス的」教会の在り方についての意見書の提出②「シノドス的」な活気ある取り組みの報告。

▼日本の教会の取り組みは、①「シノドス的方法」を紹介する『シノドス ハンドブック』の作成と配布②各教区レベルでの「シノドスの集い」の開催と、そのための支援③日本の教会レベルでの「シノドスの集い」の開催（別項に記事）。

取り組みの具体的内容は、準備ができ次第お知らせするとし、③については開催日程が伝えられた。

マチアス 川上 忠秋 神父 帰天

3月1日午後3時44分、腎不全のため長崎市三原台病院で逝去。84歳。

1939年10月19日五島市生まれ。三井楽教会出身。67年3月16日大浦天主堂で司祭叙階。同年青砂ヶ浦、68年稲佐の両教会で助任を、70年からは小値賀、71年水主町、74年宝亀、80年浜脇、85年馬込の各教会で主任を務めた。94年サバティカル（イタリア・ロッピアーノ）。その後、95年大浦、2001年曽根、07年浅子、13年深堀の各教会で主任。18年4月引退。

通夜は3月3日浦上教会信徒会館、葬儀ミサ・告別式は4日同聖堂で中村倫明大司教の司式により行われた。

通夜では、57年前に共に司祭叙階の恵みを受けた片岡久司師が説教をした。片岡師は、川上師が司祭召命の道に入った動機について「尋ねたことはなかったけれど、その後の生活から察するに、神父様は『神様と人が大好きだった』から、そのためになる働きを望まれたのではないかと思う」と述べ、真っすぐな親しみ深い人柄で温かい人間関係を築き、多くの人に愛された故人をしのんだ。

葬儀ミサでは弟の川上栄光師（神言修道会）が説教し、幼少の頃からの兄の生涯を振り返りながら思いを語った。「引退した後、多少体調が悪くても司祭会議への出席を欠かさなかった兄は、教区の将来を案じ、発展を願っていたに違いない。私も兄と同じように、彼の歩いた道を歩んでいこうと思う」と結んだ。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭マチアス川上忠秋神父の逝去につきましては、早速ご丁重なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のためにお祈りいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げるべきところ、紙上をもって代えさせていただきます。

二〇二四年三月

カトリック長崎大司教区
大司教　中村 倫明

日本のシノドスのつどい
長崎教区から4人が参加

昨年末に日本カトリック司教協議会に設置された「シノドス特別チーム」（担当・菊地 功大司教）。同チームは、今年10月に開かれるシノドス第16回通常総会・第2会期の準備のために日本の教会レベルの「シノドス」を開催するとし、「日本のシノドスのつどい」への参加を呼び掛けた。参加者は各教区の司教全員と、司祭、奉献生活者、信徒の代表が各1人。

この集いは3月7日（木）～8日（金）、東京・日本カトリック会館を会場に、主に次のことを目的に開催された。①シノドス的教会の姿をよく表している「霊における会話」を体験する②第1会期の「『まとめ』報告書 宣教するシノドス的教会」に基づいて、私たちの教会の現状を「霊における会話」の手法を用いて話し合う③これら2つの内容を今年5月15日までに教皇庁シノドス事務局に提出する。

長崎教区からは、急きょ欠席となった中村倫明大司教に代わり尾高修一師（中央協議会へ派遣中）と、教区シノドス担当の岡 秋美師（長崎教区司祭）、教区評議会女子修道会代表代理の成願めぐみ修道女（純心聖母会）、教区評議会副議長代理で長崎南地区女性部役員の中ノ瀬ゆき氏（小ヶ倉教会信徒）が参加した。

集いでは、代表者らが交流し、2日目の全体会議でシノドス事務局に提出する文書が採択され、ミサをもって終了した。

愛野教会 諫早小教区の集会所に

2021年度から小教区評議会の機能を停止していた愛野教会は、今年4月1日から諫早小教区の集会所になる。愛野教会は1951年11月創設。スカボロ会に委託され、その後、同会が教区を去った後は諫早小教区の巡回教会としての期間を過ごし、74年からはサレジオ修道会に委託されていた。

人事異動・任命

（ ）は前任地、〔 〕は備考など

▼教区〔4月14日着任　(1)は2月9日付〕

高野　治師　小ヶ倉主任、大山主任（大野主任）
鳥瀬　文武師　上五島地区長〔青砂ヶ浦主任継続〕
中濱　繁喜師　大司教館（青方主任、丸尾主任、上五島地区長）
岩崎　晋吾師　天神主任（諫早主任）
湯浅　俊治師　宝亀主任（福岡カトリック神学院養成者、天神小教区管理者(1)）
浅田　照明師　青方主任、丸尾主任（太田尾主任）
辻原　達也師　諫早主任（小ヶ倉主任、大山主任）
嘉松　宏樹師　教区会計、法人事務所長（福岡コレジオ院長）
岩本　繁幸師　大野主任、教区会計補佐（教区会計、法人事務所長）
川原　昭如師　曽根主任（宝亀主任）
山口竜太郎師　真手ノ浦主任（長崎カトリック神学院院長）
野濱　達也師　長崎コレジオ院長（真手ノ浦主任）
中野健一郎師　〔教区書記官解任、浦上助任継続〕
稲田　伸也師　大司教秘書、教区書記官（福岡コレジオ副院長）
キム・ボム師　韓国へ帰国(1)（天神主任）
青田　憲司師　太田尾主任（曽根主任）
鼈甲屋賢治師　大分教区へ派遣（浦上助任）
南（ナム）時眞（シジン）師　長崎カトリック神学院院長（同副院長）
西田　祐尚師　浦上助任（福江助任）

▼聖ビンセンシオの宣教会〔4月14日着任〕

アウグスチン・トゥ師　長崎コレジオ協力司祭〔カトリックセンター、ベトナム人共同体司牧担当継続〕

▼サレジオ修道会〔4月〕

濵﨑　敦師　東京・日本管区本部（愛野主任）

＊濵﨑 敦師は2023年12月15日、同修道会聖フランシスコ・ザビエル日本管区の次期管区長に任命された。管区長就任は24年6月6日。

2024年4月から相続登記の義務化スタート
これまでの相続も対象
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など
まずは、お電話を!!
司法書士 行政書士 山下 緑 事務所
ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21　電話 0957-22-6177

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 4月号
教会学校・その他行事傷害見舞金制度のご紹介
教会では教会学校、聖書の勉強、聖歌の練習、遠足、バザー、キャンプ、お泊り会、クリスマス会などの行事が行われます。カリスでは、教会行事に参加される司祭、リーダー、父母、生徒などが行事参加中や、活動場所と自宅との往復途上に被ったケガを補償する「教会学校・その他行事傷害見舞金制度」を提供しております。加入タイプによって、参加者が起こした偶然な事故による賠償事故の補償もご用意しております。
＜主な事故の例＞
• イベントを手伝った信徒が転倒して肘を骨折した。
• 教会学校参加中の学生が転倒して歯が折れた。
＜行事に対する掛金、補償内容＞
①日帰り行事（熱中症も対象です）
日帰りの行事では１名あたり掛金10円のタイプと、70円（賠償責任補償付）の２タイプがございます。
②宿泊行事（C～Hタイプの場合）
宿泊日数に応じて、１名あたり掛金90円～190円の６タイプがございます。
加入者は小教区、修道院などです。
本制度には、毎年500近くの教会学校や各種行事にご加入いただいております。制度は毎年６月1日開始ですが、それ以降も行事ごとにご加入いただけます。
※本ご案内は「カトリック教会学校・その他行事傷害見舞金制度」の概要についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。
私たちが、お守りします。 三條貴英　毛利玲子　山本泰彦　服部秀昭　川口 薫神父(顧問)

カトリック共済システム 有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
23TC-007795（2024年2月作成）
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

このたび福岡教区広報部に記事提供のご協力をいただき、許可のもと長崎教区報の紙面に合わせて編集・掲載させていただきました。全文は『カトリック福岡教区報』2024年4月号の紙面や同教区のウェブサイトで読むことができます。

司祭養成の歴史に幕――
福岡カトリック神学院 閉校式と感謝ミサ

多くの神学生が司祭を目指して学び、寝食を共にした福岡カトリック神学院（旧福岡サン・スルピス大神学院）。今春の閉校にあたり、この地で司祭養成のために生涯を捧げてきたサン・スルピス司祭会（以後スルピス会）に感謝の意を表すため、2月23日（金）閉校式と感謝ミサ、祝賀会が長崎教会管区主催で執り行われた。

福岡サン・スルピス大神学院は、第2次世界大戦の後、1948年福岡市浄水通にあった聖母訪問会の建物を譲り受けて開校。神学生は70人、養成者は5人であった。養成は、戦前33年から神学生の指導に当たっていたスルピス会カナダ管区に委ねられた。51年、現在地（福岡市城南区松山）に新校舎が完成して移転。53年現聖堂が完成、11月に献堂式が行われた。開校以来73年、ここで学んだ神学生は約800人。約300人が司祭に、14人が司教に叙階され、主に西日本各地で宣教司牧に当たっている。

この日、神学院の聖堂には長崎教会管区司教5人の他、スルピス会総長・カナダ管区長代理のハイメ・モラ神父、東京カトリック神学院院長の稲川圭三神父、同窓の司教・司祭、各教区事務局長、養成に尽力した講師、陰の奉仕で支えた修道者・職員ら約130人が集った。

冒頭、主司式の中村倫明大司教は、閉校に対する悲しみと寂しさをにじませながらも「まず何よりも感謝」と、スルピス会、教職員、恩人、後援会に謝辞を述べた。また、「閉校は、私たち司教が、この神学校に神学生を送ることができなかったから」と深々と頭を下げた。

説教師を務めた中野裕明司教（鹿児島教区）からは、戦後求道者が増えて教会が求められ、司祭養成が急務だった当時、カナダから来日したスルピス会の司祭たちや、日本人の教授や院長たちと、その功績が紹介された。また、日本カトリック神学院が誕生し東京と福岡に2つのキャンパスができた歴史に触れ、養成のビジョンの違い（自己養成か、他人から養成されるものか）や、少子化による数の減少から、家庭からの召命の大切さ、神の民全体で役割を担うなどの課題が提起された。

拝領祈願後の感謝式で、教会管区を代表しあいさつに立った森山信三司教（大分教区）は「小教区では、さまざまな方との出会いがあり、司牧の喜びを実感します。しかし、神学校というある意味閉ざされた空間で日々学生と向き合い、人を育てることは忍耐を要する務めだと思います」と語り、養成者に向けて謝意を表した。また、スルピス会がこれまで捧げた援助、熱意を、今後は総合的な人間の養成の場としてこの地で継続されるよう、祈りと支えを願った。

続いて、感謝の花束が、ハイメ・モラ神父、現神学院院長の牧山強美神父（長崎教区）、教員を代表して深堀 純氏、職員を代表して峯 昭男氏の4人に贈呈された（上の写真）。ハイメ・モラ神父は、90年前、福岡の司教から神学校創立の要請を受けたが、日本語で働くように呼ばれ、すべてを学び始め、すべてを築き上げるという多くの困難に、信仰なしには踏みだすことのできない船出であったこと、また、スルピス会カナダ管区にとっては最初の海外への宣教事業であり、その後の宣教を促す初穂となったことなどを紹介。最後に、日本の教会に奉仕するために司祭会はいつもここにとどまり続ける、と語った。

式の最後にあいさつした牧山院長は、「祈りの終わりに、『そうでありますように』『まことにそうです』という意味を込めてアーメンと唱和しますが、『もう終わりですよ』という合図もあると思います。この神学院の長い営みをアーメンで終わらせようと思います」と話し始めた。そして、多くの祈りがこの場で捧げられてきたこと、同窓司祭たちには「胸に手を当てて聞いてください」と、神学生時代に犯したであろう規則違反の数々（飲酒・居眠り・始末書など）を挙げて笑いを誘い、「喜びの時も、納得のいかない時も、心がどこかに飛んでいた時も、『主よ、あとはすべてをあなたに委ねます、アーメン』と唱えてきました」と語り、それらすべての祈りをアーメンで終了させたいと締めくくった。

長崎カトリック神学院 神学生2人が卒業

長崎カトリック神学院の卒業式が2月29日（木）17時から中村倫明大司教を迎え、神学院聖堂で行われた。1989年に開校した長崎カトリック神学院。卒業生の数は今回の卒業生を含め150人を超えた。

神学院を卒業したのは、岩永剣世（けんせい）さん（神ノ島小教区出身）、山下飛翼（つばさ）さん（黒崎小教区出身）の2人。式には在校生、家族、主任司祭、講師の先生、縁のある方々が参列し、卒業生を祝福した。

式後にはささやかな祝宴が開かれ、在校生たちによる歌の披露もあり、心温まるひとときを過ごした。卒業生の2人は、新年度から始まる※「長崎コレジオ」の学生として新たな司祭養成の段階へと移っていく。

※長崎カトリック神学院卒業後の進学先だった長崎教会管区立「福岡コレジオ」は今年3月末日をもって閉校。神学生は今後、新体制の「長崎コレジオ」で養成される。同コレジオは今年5月頃にお告げのマリア修道会中町修道院跡に開校予定。

2024年度
定例司教総会
カトリック新聞の今後についても決まる

2月13日（火）から15日（木）まで、東京・日本カトリック会館で定例司教総会が開催された。

主な報告事項

▼能登半島地震により被害が出た石川県を管轄する名古屋教区の松浦悟郎司教と、カリタスジャパン担当の成井大介司教（新潟教区）から、現地の教会関連の被災状況と支援の現状が報告された。

▼日本カトリック学校教育委員会は、信者教員が減少しているカトリックの教育現場の実態を調査分析することで学校やそこに集う子どもたちを支援しようと昨年6月「カトリック学校教育実態調査」を実施。調査結果は今後分析され、2025年に報告される予定。

▼第16回シノドス第2会期に向けての取り組みを検討する「シノドス特別チーム」が今年1月の常任司教委員会に提出し承認された事項の報告。

▼今まで文語で行われていた「諸聖人の連願」の口語版が昨年7月の臨時司教総会で承認されたことを受け、日本カトリック典礼委員会は、聖人の新しい固有名詞表記を25年度の待降節第1主日（24年12月1日）から採用すること、実施に当たっては聖人の新しい固有名詞表記のリストを典礼委員会が作成し、中央協議会のウェブサイトで公表することを報告。

▼現時点で教皇庁から通知が届いている聖年に関する情報（祈り、ロゴマーク、教皇庁での行事予定）が報告された。邦文が確定した段階で、順次中央協議会のウェブサイトに掲載し、準備を進める。

主な審議事項

▼日本の教会で総合的（インテグラル）なエコロジーを共に歩むための、司教団からの招きとして作成された文書の内容を検討。出された諸意見を加味し修正することで司教団文書とすることを承認した。タイトルは『見よ、それはきわめてよかった― 総合的（インテグラル）なエコロジーへの招き』として今後、発行される。

▼昨年12月に司教叙階されたアンドレア・レンボ司教（東京教区補佐司教）を、2月14日付で司祭生涯養成部門担当司教に任命することを承認。

▼18年2月の定例司教総会で、「カトリック新聞将来ヴィジョン策定チーム」は「電子媒体（IT）を活用する広報活動を、カトリック中央協議会の重要な宣教事業の一つとして位置付け、紙媒体はふさわしい形でその独自の役割を果たせるようにする」ことを提案し承認された。これを受け検討を重ねた結果、25年3月をもってカトリック新聞の週刊有料紙としての発行を終了することが常任司教委員会委員長の菊地大司教から提案され承認。25年4月以降はオンラインでニュースを無料配信し、紙媒体は月1回、無料で配布する。

（4面に関連記事）

▼20年度定例司教総会で、「日本の教会における司祭の生涯養成プログラム」として、叙階からの年数15～20年の司祭がプログラムB（海外研修）を受けることが承認された。しかし叙階年齢の高齢化などから、各教区で該当年数の司祭を派遣できない状況もあるため、25年1月に開催予定のプログラムBの参加者については、該当叙階年数、もしくは「その年数に相当する50歳代の司祭」（1～3人）を各教区から選出してもらい、対応することが承認された。

▼23年度中央協議会収支決算書が承認された。

ミサ後の祝賀会では、スルピス会会員で養成者でもあった髙見三明名誉大司教が、「私は生涯の半分をここで過ごし、そういう意味でも、閉校には非常に辛い思いをしています。ですが、希望のないところに希望するというのは私たちの信仰です。この神学校のこれからの在り方も含め、教会を生き生きとしたものにしていくために、皆さんと頑張っていければ」とあいさつした。

乾杯の後は賑やかな宴となり、最後は「司祭の心」を一同で歌い、閉会した。

感謝
―香典返し―

長崎大司教区
●早田正代様（植松）
故ヨゼフ早田 昇様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町 1385 番地 1　TEL (0959) 74－5551　FAX (0959) 74－5552
五島市奈留町浦 1899－1　TEL (0959) 64－3101　FAX (0959) 64－3102

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり　佳織木工所
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ヨハネ 濱口 知博

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

内科・循環器科
医療法人 平田クリニック
院長　ヨゼフ　平田哲也
通所リハビリテーション
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅
長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

〝イエス様を伝える人に〟

各地区で堅信の秘跡

平戸地区

平戸地区合同堅信式が、中村倫明大司教を迎え、2月18日（日）午後2時から平戸ザビエル記念教会で行われた。受堅者は中学生15人、大人1人、佐世保地区の大崎教会から1人、合計17人。司祭団、信徒、修道者合わせて約100人が集い、聖歌の降臨を願う聖歌の中で共に祈りがささげられた。

大司教は「今日からは、聖霊が与えてくださる賜物に支えられながらイエス様を証しする人、イエス様を伝える人として生きていってほしい」と励ましの言葉を贈った。また、ミサ曲をはじめ、各聖歌を大きい声で一緒に呼吸を合わせて歌い、素晴らしい堅信式だったと話した。

受堅者と共に霊的喜びを分かち合う感慨深いひとときとなった。（写真は、握手をする大司教と受堅者たち）

長崎北地区

2月25日（日）に長与教会で長崎北地区6教会（滑石、時津、長与、黒崎、出津、植松）の合同堅信式が中村倫明大司教の司式で行われた。堅信の秘跡の恵みを受けたのは中学生21人と大人1人の計22人。

中村大司教はミサの説教で、主の変容時の「あなたはわたしの愛する子」という御父の言葉から、油を注がれて「キリスト」となる受堅者が、神の愛をしっかりと受け止め、神の愛の証し人となるよう励ました。受堅者は両親から抱きしめられて塗油の式に臨んだ。

参列者の一人は「（その様子を）小学生の子どもたちがうらやましそうに見ている姿が印象的だった」と話していた。

佐世保地区

3月3日（日）四旬節第3主日、佐世保地区合同堅信式（14小教区）が佐々教会で行われた。今年の受堅者は中学生と大人、計53人であった（平戸・宝亀教会から1人）。

昨年同様、マスクを着用しての堅信式とはなったが、今年も佐世保地区聖歌隊が参加し、皆で聖歌を歌い、祈ることができる式となった。中村倫明大司教は説教の中で、詩人西條八十の『かなりや』を歌い、「わたしたちにはイエス様が共にいてくださる」と受堅者たちを励ました。

また、当日、侍者を務めた2人の大神学生・廣田 学神学生（鹿子前教会）、森 翔真神学生（太田尾教会）を紹介し、召命への祈りを願った。

新たな形での情報発信の姿を確立するために

〝週刊〟カトリック新聞は来年3月まで

世界や日本のカトリック教会のニュースを伝える週刊「カトリック新聞」（東京・カトリック新聞社）は、3月3日付発行の紙上で「現在の週刊でのカトリック新聞は、2025年3月30日付（4761号）をもって休刊する」と伝えた。

カトリック新聞の前身である「公教青年時報」は1923（大正12）年1月1日に創刊。昨年2023年には創刊100周年を迎え、現在も多くの人々が愛読している。

日本カトリック司教協議会会長で東京教区大司教の菊地 功大司教による記事「カトリック新聞の新しい歩み―週刊『カトリック新聞』休刊のお知らせ」には、印刷された情報の大切さとともに「一般読者が社会に向けて意見を述べる重要なコミュニケーション手段」であることが述べられている一方、「しかし同時に、現在の新聞事業の経営状況と、インターネットの普及のスピードを考え合わせたとき、日本のカトリック教会の情報発信をどのようにするべきか、数年前からそのあるべき姿について検討を重ねてまいりました。その結果、数年後を見据えて、現在、カトリック新聞、広報、出版と独立しているカトリック中央協議会における情報発信の部門を統合し、新たな形での情報発信の姿を確立するために、具体的な作業に入ることを決定致しました」とある。

カトリック新聞は今後、2025年3月をもって週1度発行する週刊の紙媒体を休止し、インターネットでの情報発信へと転換する方向。ただ、インターネットへのアクセスが難しい方のために、紙媒体での発行も毎月1度の形で継続し、無料広報誌として、各小教区や修道院、教会関係施設に配布するなどの方法で届けられることになる。

4月から再開予定

子どもと女性の人権相談室

長崎教区は、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」（毎年四旬節第2金曜日、今年は3月1日）を前に、2020年から一時閉鎖としていた「子どもと女性の人権相談室」をこの4月から再開する予定であることを教区内に伝えた（2月27日付）。

文書によると、相談室は中町教会信徒会館の一室を借りて再開される予定で、窓口連絡先などの詳細が決まり次第お知らせするとしている。今後、小教区や本紙などを通じてお伝えしていく。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

公開 「聖週間の典礼」テーマに カトリック講座

2月17日（土）、教区生涯養成委員会が主催するカトリック公開講座「聖週間の典礼」が開催された。講師は中村倫明大司教が務め、カトリックセンターホールに加え、各地区へのオンライン配信も合わせて約300人が受講した。

中村大司教は自らの司牧経験をスライドで紹介しながら、聖週間の典礼について詳しく解説した。四旬節にささげる犠牲とは、苦しむことではなく、キリストと隣人を愛することが目的であること、聖金曜日の十字架礼拝では十字架像に実際に触れ、抱擁し、苦楽を共にしてくださるキリストを感じる典礼の在り方が紹介された。

また、聖なる三日間はかがやく三日間、全典礼の頂点であり、典礼における静と動、一人一役の福音朗読、洗足式など実際の動作をもって過越の典礼を味わうことの大切さを説いた。実生活にあっても、漁師は漁師をしながら漁師に、信徒は信徒をしながら信徒になっていくとし、信仰生活も動くことによって深められ、まずは「声かけ」を大切にと呼びかけた。

（教区生涯養成委員会）

新刊良書

★教皇フランシスコ使徒的勧告 信頼の道―聖テレーズ生誕一五〇年を記念して

キリスト者の枠を超え、今も世界中で広く愛されているリジューの聖テレーズ。その生誕150年にあたる2023年に公布された使徒的勧告。わずか24年で地上の生を終えた聖女が示した「信頼と愛の小さな道」について説き、素朴に生きること、何よりも愛が大切であると知ること、神への信頼と委託を再発見することへと招く。原文の発表は2023年10月15日。

カトリック中央協議会、税別450円。

★病と老いと死、とその後の「いのち」

著＝森 一弘

故森 一弘司教が、真生会館での日曜講座シリーズで話された原稿を編集してまとめたもの。タイトルにあるように「いのち」と「死」を中心にした6項目の講話を通して、死から目をそらした文明の中で生きている私たちに問いかける。終末とは、聖霊とは、死を突き抜ける光、希望とは…。

女子パウロ会、税別1400円。

★新しい「ミサの式次第」と「ミサの賛歌」の旋律（一般用）

編＝日本カトリック典礼委員会

新しい「ミサの式次第」などの実施にあたって、すでに公表されている旋律の会衆用冊子。「ミサの式次第」と「ミサの賛歌」（ミサ曲）ともに、ABCの3種類の旋律が収録されている。全国の小教区や修道院などへのいっそうの普及のために、現行『典礼聖歌』と同じ判型となっている。

カトリック中央協議会、税別300円。

カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会主催 2024年度 カトリック講座のご案内

オンラインでも受講可 Zoom（ズーム）

今年度のカトリック講座は、2023年度に引き続き「信仰生活の基礎知識」の続編、～ともに歩む教会をめざして～をテーマに全10回の講座を開催いたします。教会組織と社会とのつながりを簡潔に学ぶことを目的に、十戒やカトリック教会の5つのおきてなど信仰生活の日常的なこと、エキュメニズムや諸宗教対話などについて学びます。

受講する皆様がキリストをより身近に感じ、自分を見つめ直し、それぞれの召命を見いだすきっかけとなる場を提供できる講座となることを願っています。

多くの方のご参加をお待ちしております。

生涯養成委員会　山添克明

◆場　所　カトリックセンター2階講堂 または オンライン受講
◆受講料　5,000円（全10回分）　＊聴講可能（1回 1,000円）
◆申込先　カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会
Fax 095-841-7732　✉cnsy.kouza@gmail.com
※お問い合わせのみ電話で受け付けます。Tel 095-841-7731

講座申し込みは↑こちらからも可能です

申込期限　2024年4月30日（火）※オンライン受講は随時受け付けます。
カトリックセンターで受講希望または初回の講座受講の場合は期限を厳守してください。

土曜日　午前10時30分～11時30分　★公開講座のみ午前10時～12時です。
テーマ：信仰生活の基礎～ともに歩む教会をめざして～　テキスト：なし

	月　日	講　師	内　容
第1回	5月18日	岩下和樹師	十戒
第2回	6月　1日	川端志範師	カトリック教会の5つのおきて
第3回	6月　8日	ダニエル金 桐旭師	教会の組織・役割
第4回	7月　6日	山内啓輔師	教会と社会
第5回	7月20日	稲田伸也師	自由と罪
第6回	9月　7日	松尾 太 師	修道生活
第7回	9月21日	谷脇誠一郎師	日本の教会
第8回	10月　5日	辻原達也師	召命
第9回	10月19日	竹谷 誠 師	エキュメニズムとは キリスト教一致を目指して
第10回	11月　2日	デ・ルカ・レンゾ師	諸宗教対話 【公開講座】★ 異宗教間の一致を目指して